

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：大学費 目：情報科学芸術大学院大学費

事業名 図書館運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 情報科学芸術大学院大学 電話番号：0584-75-6600

E-mail：c21905@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,031 千円 (前年度予算額： 5,031 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,031	0	0	180	0	0	0	0	4,851
要求額	5,031	0	0	0	0	0	0	0	5,031
決定額	5,031	0	0	0	0	0	0	0	5,031

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

大学院大学附属図書館として学術研究活動全般を支える学術情報基盤の役割を担うために、適切な環境と資料を整備、維持する。

(2) 事業内容

適切な図書館運営のために必要な物品の購入と図書館システムの保守等管理を行う。また、図書館関連団体に加盟し職員を含め、図書館の質を向上させる。教員学生の調査研究に資する、図書、雑誌、新聞、視聴覚資料を購入し提供するとともに学術情報基盤の役割を担うべく、機関リポジトリ等による学術情報の共有を行う。

（３）県負担・補助率の考え方

県が設置する大学の図書館の運営であるため、県の負担は妥当である。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	44	図書館関連団体総会、研修会旅費 等
消耗品費	3,044	和洋図書・雑誌、視聴覚資料購入費 等
委託料	616	図書館管理ソフト保守委託料 等
使用料	1,040	オンラインジャーナル、データベース使用料 等
備品購入費	200	高額資料購入費
負担金	87	図書館関連団体会費
合計	5,031	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）国・他県の状況

公立単科大学 図書館 経費

・平均 図書館総経費 47,890千円

・平均 うち図書館資料費 24,338千円

（令和6年度学術情報基盤実態調査 令和5年度 図書費）

（２）後年度の財政負担

書籍の高騰やデジタル化対応などの現状を踏まえて適切な図書館運営のために必要な費用を毎年度見直す。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

6年度からの3年間で、10年以上放置されてきた除籍を含む適正な蔵書管理と利用者管理、環境整備といった図書館の累積する課題を解決し、適正な図書館運営が負担なく維持できる状態にしたい。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標	達成率
①図書受入累計冊数	34,969冊 (H22)	49,183冊	49,482冊	48,000冊	48,000冊	48,000冊	103%
③学生1人当たり年間貸出冊数	35.36冊 (H25)	28.9冊	26.4冊	50冊	50冊	50冊	53%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	受入冊数1,096冊。また学生1人当たり貸出数は前年度を上回り、また全国の公立大学平均（3.7冊：令和3年度実績・日本図書館協会調査）をも大きく上回っている。
	指標① 目標：48,000冊 実績：48,540冊 達成率：101 %
令和5年度	受入冊数910冊。また学生1人当たり貸出数は28.9冊と全国の公立大学平均（6.6冊：令和4年度実績・日本図書館協会調査）を大きく上回っている。
	指標① 目標：48,000冊 実績：49,183冊 達成率：102 %
令和6年度	5万以下の図書について消耗品への分類換えを実施し、館内に段ボールに詰めて置かれていた図書約500点を除籍、廃棄した。また、図書管理システム内に残されていたデータのみ図書や蔵書点検不明のまま放置されていた図書を除籍した。 館内を整備し、全書架の清掃と並び替えを実施した。 これまでに刊行された本学紀要15巻を機関リポジトリに登録した。 洋雑誌の媒体や購入方法を見直し、価格や会計にかかる負担を改善した
	指標① 目標：48,000冊 実績：49,482冊 達成率：103 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない	
(評価) 2	情報科学・芸術の分野に特化した専門図書館として、大学の学術的な基盤を支えると同時に、公共図書館が対応しきれない情報科学分野の最新知識を一般県民が活用できる開かれた図書館として、継続が求められている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3: 期待以上の成果あり 2: 期待どおりの成果あり 1: 期待どおりの成果が得られていない 0: ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研究の質向上を担保する役割を担っており、常に一定数の利用がある。開館時間やリクエストなど、ニーズに応じた対応により、利用者との信頼関係を築き、貸出数に拠らない支援も増加している。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている	
(評価) 2	3年計画で環境整備、課題解決を含む業務の見直しを行っており、1年目に実施した環境整備により、書架スペースと配置の問題が解消したことにより、格段の効率化が進んだ。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
開学当初からの目標45,500冊数を達成し、収蔵能力冊数の47,000冊を超過した現在、長年放置されてきた除籍を含む適正な蔵書管理体制の構築が喫緊の課題である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 専門図書館として、学内の研究のみならず、図書館間の相互貸借を通じて県民のニーズに添えていく。累積した課題解消はもちろん、その過程で、利用者サービスの改善やより専門に特化した蔵書構成などに取り組み、独自性のある魅力のある図書館を目指す。		
--	--	--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる実施する理由 や期待する効果 など	